

令和2年度 第12回全体庁議（11月9日開催）

区分	審議・ 報告	案件名 (担当部)	(1) 十勝圏複合事務組合における新中間処理施設の整備検討状況の報告について [都市環境部]
----	---------------	--------------	--

■ 提案・報告の趣旨

十勝圏複合事務組合では、昨年度、新中間処理施設整備基本構想(原案)を取りまとめた後、パブリックコメントや住民説明会での意見、洪水ハザードマップの改定、新たな共同処理加入の表明などがあり、原案の検証が必要として追加調査を行ってきた。このたび、追加調査の結果が報告され、さらに構成市町村の枠組みの変更、施設規模の見直しや追加調査に基づいて必要な修正等を加えた基本構想(原案)を改めて公表し、意見を聴取するという考えが示されたことから、令和2年11月18日の厚生委員会に報告するもの。

■ 提案・報告の主な内容(概要)

1 追加調査結果概要

(1) 一般廃棄物の減量化・資源化に関する事例調査

地域性を考慮しながら減量化・資源化に取り組むこと、製品プラスチックの資源化については国の動向を情報収集しながら構成市町村と協議を進めること、新施設等を活用した環境教育の拡大を行うことなどの方向性を示した。

(2) 中島地区における治水等に関する調査

①建設予定地C地区について、想定浸水深が5メートルを超えるところが部分的にあるが、家屋倒壊等氾濫想定区域については建設候補地等の中で唯一該当しないという結果となった。

②有識者からは、浸水は盛土等の浸水対策を行えば影響は少ないが、家屋倒壊等氾濫想定区域では建築物を建設すべきではなく、この区域を含まない建設予定地を建設地とするのが適当であるなどの意見を聴取した。

(3) 先進自治体における一般廃棄物中間処理施設整備状況及び新設以外の整備方法に関する事例調査

①函館市のリニューアル方式では、技術的な課題により2炉ではなく3炉整備となったこと、概算事業費の約230億円は施設供用開始までの施設整備費で、工事期間中のごみ処理費や建屋の補修等の事業費は別途必要であるなどの結果となった。

②現施設のリニューアル方式では、炉の整備必要日数を考慮すると、1年間で全てのごみを処理できず、代替施設での受け入れには多大な経費を要すること、現施設が河岸浸食の想定区域であること、更新期間中の数年間は、工事と通常業務が平行して行われ、制約が多い工事となるなどの課題がある。

2 施設規模及び概算事業費

新たな共同処理加入の影響や構成市町村のごみ排出量を改めて算出した結果、焼却施設が290トン/日、大型・不燃ごみ処理施設が46トン/日、概算事業費は税抜き約290億円となった。

3 追加調査後の住民意見聴取

基本構想(原案)について、改めてパブリックコメントと住民説明会を実施し、意見を聴取する予定である。

■ 今後のスケジュール

基本構想(原案)について、パブリックコメント及び住民説明会を実施し、意見聴取を行う予定。

■ 審議結果

・同内容で、11月18日厚生委員会へ報告することで了承された。

■ その他、指摘事項等

・特になし